

## ヘッダ・ガブラー (鳥の劇場)

作：ヘンリック・イプセン 演出：中島諒人

9月18日(木)・19日(金) 19:30 20日(土)・21日(日) 17:00 22日(月) 22:00  
17日(水) 20:00から現場のぞき体験があります(詳しくはP.31へ)

**スタジオ** 料金：大人=2,500円 中高生=1,000円 小学生=無料

ヘッダは高名な軍人ガブラー将軍の娘。自他ともに認める特権的な存在である。文明史を研究している凡庸な学者テスマンと結婚したばかり。社会の抑圧の中で、人生を男性のように自分の意志でコントロールしたいと感じているが、行動する勇気がなく、自力で生きていく力もない。才能あふれる学者レーヴボルクに自分の人生の希望をかつて託した。この男との久しぶりの再会、豊かな女性性と行動力をもったエルヴステード夫人との出会いが、ヘッダの人生を異様な方向に導いてしまう。

ある特異な性格傾向をもった人間を、日常ではあり得ないような状況に置き、その人が社会とどのようなさし見を見せるかを描くのが、ヘンリック・イプセンの手法です。特異な性格、あり得ない状況を土台にしているため、たがエキセントリックな結末が導かれてしまいそうですが、人間と社会との普遍的な問題に光が当てられるのは、まぎれもなくイプセンの人間を見る力、ドラマを作る力のなせる業です。

この作品の主人公は肥大した自尊心をもった怪物で、英雄的に自分の人生を生きたいと願っていますが、リスクを恐れる怠惰と、女性を囲む社会的状況の中で動くことが出来ず、美しい自死を夢想しています。イプセンのしつらえをていねいに手探りして、そこに浮上して来る強烈なものをお客さんと分かち合いたいと考えています。(中島諒人)

出演：中川玲奈 齊藤頼陽 赤羽三郎 西堀 慶 村上里美 葛岡由衣 増谷京子 舞台美術：中島諒人 照明：齋藤 啓  
舞台監督：村上裕二 制作：鳥の劇場

利賀フェスティバル2008招待作品

### ■鳥の劇場とは

演出家・中島諒人を中心に、2006年に設立。鳥取県鳥取市鹿野町の使われなくなった幼稚園と小学校の体育館を拠点に活動。創作・上演活動だけでなく、地域の文化拠点としての劇場作り、教育・普及活動にも力を注ぐ。「鳥の劇場」という名前は、劇団の名であり、場の名前でもある。公共の場としての劇場のあり方を模索している。

**TALK** 各回上演後に演出家によるアフタートークがあります

